

## 第4回道南いさりび鉄道沿線地域協議会 議事録

日時：令和5年11月17日（金）10:00～10:30

場所：函館北洋ビル8階 小ホール

（開会挨拶）

### 《齋藤局長（道）》

- ・ 道南いさりび鉄道が開業して7年が経過しているが、川越社長をはじめ、社員の皆様におかれては、他の交通事業者と同様に厳しい環境にある中で日々、安全運行を通じて責務を果たされていることに、厚くお礼申し上げます。
- ・ また、2市1町の皆様におかれては、経営の安定化に資する利用促進の取組など必要な協力に対して常日頃より道庁とともに取組を進められていることに、重ねてお礼申し上げます。
- ・ 本協議会では、本年9月に、道南いさりび鉄道の経営計画に基づく検証を実施した。開業から10年を迎える令和7年度までの安定的な鉄道運行を維持することを最優先とすべく、関係者で取組を進めることを確認したところ。
- ・ 本日の会議では、検証結果を踏まえた協議会としての対応や道南いさりび鉄道の今後の方向性などについて、協議いただくこととしている。
- ・ 公共交通を取り巻く環境は厳しく、それは道南いさりび鉄道でも同じであるが、会社としての考え方などを確認しながら、今後を見据えて様々な観点から意見をいただき、令和5年度末を1つの目途に協議会としても一定の判断を行っていきたいと考えているので、よろしく願います。

## 1 議題

### （1）報告事項

- ①北海道道南地域（五稜郭・木古内間）並行在来線経営計画に基づく検証について  
資料1に基づき、事務局から説明（質疑なし）。

### （2）協議事項

- ①道南いさりび鉄道への臨時支援について  
資料2に基づき、事務局から説明。

### 《北斗市 工藤副市長》

- ・ この先ケースバイケースであるとは思いますが、必要があれば今後もこのような支援はやっていくという受け止め方をしてもよいか。

### 《齋藤局長（道）》

- ・ 道庁としても今回の臨時支援を講じるに当たって、様々な議論があった。本来であれば、経営計画に基づく安定的な経営を会社の責任において取り組まれるべきであると思うが、今回臨時支援を講じたのは、設備投資等が当初の想定よりも費用が嵩んでおり、会社が努力されている中で、自治体としても、現に地元の方を含めて利用者がいるので、鉄道の安全な運行にどのような形で責任を果たすべきかというところに立ち返って、毎年度自治体が支援をしているのが足りないということではないかもしれないが、必要な経費にはしっかりと手当てし、令和7年度までの現経営計画の中での安定的な運行をする観点で今回支援を講じることとした。
- ・ 協議事項にもあるが、今後の経営計画等の議論の中においては、そのような設備投資の部分などに対してどのような支援を講じていくべきかという観点でいけば、予見し得ない事象で特に安全に関わる部分について、先送りされるような状況にあってはならないと思っており、会社から逐次報告を受ける中で行政として協議すべき事項として支援等を検討せざるを得ない状況があれば、それは適切に対応していくことがあり得ると考えている。

### 《川越社長（道南いさりび鉄道）》

- ・ 本協議会による経営計画に基づく検証の中で、私どもに対する更なる支援を検討いただくということで、この度、道において、設備投資への支援について予算計上いただいたところ。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。
- ・ また、沿線の函館市、北斗市、木古内町におかれましても、同様の支援措置について、特段のご配慮を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

### 《齋藤局長（道）》

- ・ 鉄道事業に対する安全をどう確保していくかに対する責任として、一定の支援、対策を講じることは必要なものと考えているので、2市1町におかれてもご協力いただきたい。

#### ②道南いさりび鉄道 第2次経営計画の策定に向けた方向性について

資料3に基づき、川越社長（道南いさりび鉄道）から説明。

### 《齋藤局長（道）》

- ・ いさりび鉄道から説明のあった令和8年度以降の第2次経営計画の策定に向けた方向性について、協議会としての検討の方向性を確認したいと考えている。
- ・ まず、道としての意見を述べさせていただくと、今日の協議会に臨むに当たり、知事とも打合せをしているが、道南いさりび鉄道は、運輸収入の減少や鉄道施設の維持管理費が増加傾向にあることは皆さんの共通認識だと思っている。また、会社の経営環境は、大変厳しい状況と認識している。会社経営の安定化や鉄道事業の持続性を考えていく上では会社の自助努力を前提に道と2市1町含めて必要な対策を検討していくことが不可避である状況だと考えている。

- ・ こうした背景・経過や、開業以来、会社が担ってきた地域鉄道としての役割が大きく変わる状況にはないが、今後においても、会社において次期経営計画の策定の検討がされている考えも聞かせていただいた。こうしたことを踏まえ、協議会としても会社、自治体それぞれの立場において、直面している様々な課題を共有し、また、直視しながら、議論をはじめていく段階にあると考えている。
- ・ そのため、道としては、この地域における公共交通としての役割のみならず、道南圏の観光振興、また、貨物輸送においても重要な役割を担っている現状を踏まえ、今後は、当面の鉄道運行の維持を念頭に置きながら、厳しい経営実態を的確に捉えつつ、地域住民の利用増や観光面などのさらなる利用促進や、運行本数や車両数などの効率化などによる収支改善策、さらには、安定的な鉄道運行確保のための安全投資などの課題について、丁寧かつ慎重な検討を進め、令和5年度中を1つの目途として一定の判断が行えるように、協議会の関係者における協議・検討を進めていく必要があると考えている。

### 《佐藤副市長（函館市）》

- ・ 経営計画に基づく検証でも確認したように、道南いさりび鉄道は、通勤、通学、通院などの沿線住民の日常利用はもとより、観光列車の運行により道南地域における観光振興にも寄与している。このほか、北海道と本州を結ぶ重要な物流ネットワークの一翼を担っているなど、単なる地域鉄道の枠を超えた、高い公益性を有していることが改めて確認されたものと認識している。
- ・ 道南いさりび鉄道には、引き続きこうした役割を担っていただくことから、今後の経営方針などを明らかにするために、次期経営計画を策定することが必要不可欠であると捉えている。この方向性のとおり、しっかりと取り組んでいくことが必要だと捉えている。
- ・ 次期経営計画については、これまでの経営状況や今後の収支改善の取組などを踏まえ、また、安全かつ安定的な運行が第一であり、これらを念頭に置いて、策定いただきたいと考えている。協議会としても、構成市としても、北海道をはじめ北斗市、木古内町とも連携を深めながら、経営状況に応じた収支改善の方策等についてしっかり協議してまいりたいと考えている。

### 《工藤副市長（北斗市）》

- ・ 現経営計画の策定以後、少子化と人口減少に新型コロナの影響が加わり、道南いさりび鉄道をはじめ公共交通を取り巻く環境が厳しさを増している中、今後も当面の運行維持を念頭におき、協議が進められることは、7駅、約23kmの区間を有する北斗市としては、非常に有意義な方向であり、感謝申し上げたい。引き続き、協議会を構成する皆様と連携を深めつつ、沿線自治体として鉄道利用者の確保にも努めてまいりたいと考えている。
- ・ 一方で、沿線の公共交通としては、鉄路に並行して国道228号を運行する路線バスも地域住民の生活を支えている現状にある。今後は、様々な交通を取り巻く環境を踏まえた中で、道南いさりび鉄道を含め持続可能な最適な沿線地域の公共交通とはどうあるべきかという課題も年々大きく膨らんでいくものと考えているので、この場が良いかは別にしても、その

ような視点での議論も必要になると感じている。

### 《鈴木町長（木古内町）》

- ・ 当町も当面の鉄道運行維持を念頭におきながら、検討していきたい。また、検証結果では、令和7年度までの安定的な鉄道運行を維持することを最優先とする、とあるが、川越社長から話があったように、2030年度には北海道新幹線の札幌延伸というものが目に見えている。その時に、まさに道南いさりび鉄道の魅力が最大限に発揮される時期がその時期ではないかと思っている。また、引き続き二次交通としても大きな役割、大きな可能性があるのではないかと認識している。
- ・ 皆様もテレビ等でいさりび鉄道がどういった活動をしているかを見ることがあると思うが、いわゆる観光列車など様々な活動をされている。それは、いさりび鉄道単独ではなく、地域の住民や団体の方々を巻き込みながら展開しており、そういった取組がテレビで取り上げられることは、道南全体のPR、振興・発展に大きく貢献していると思うので、引き続き、私たちもしっかりと連携をして進めてまいりたいと考えている。
- ・ また、当町の状況であるが、生活路線として町民利用の多くは、北斗市、函館市の通勤、通学である。また、当町は高校がなく、高校生は運転免許がないので非常に重要な路線と位置づけている。地域をつくる上で、教育への投資、教育施策をしっかりと進めることは大事であり、その根幹となって支えていただいているのが、いさりび鉄道であると私は認識している。
- ・ また、公共交通として大きな視点で見ると、バスの運転手の担い手不足が全国的にも問題となっている。そういった意味では、鉄道の存続をバスの運転手の問題解決にどう良い方につなげていくかといったことも私たちは考えて検討・協議をしなければならないのではないかと考えている。
- ・ 函館市、北斗市と同じように、鉄路存続に向けて、しっかりと最大限の連携をしていきたいと思うが、沿線3市町による支援のみでは存続というのは現実的ではないので、今回、北海道で補正を組んでいただいたということは大変心強いと思っているが、引き続き力強いご支援を何卒よろしくお願いしたい。
- ・ 北海道と本州を結ぶ重要な物流ネットワークの一翼を担うということ、単なる地域鉄道ではなく高い公益性を有しているということは、私たちの共通の認識であり、道南、北海道の発展に貢献する鉄道であると思うので、皆さんとしっかりと力を合わせてより良い道南、より良い鉄道を活かした地域づくりに、私もしっかりと努めてまいりたい、皆様とより良い道南の未来を作ってまいりたいと考えている。

### 《斎藤局長（道）》

- ・ 2市1町から意見をいただき、函館市佐藤副市長からは、本州と結ぶ物流ネットワーク、地域鉄道の意義をお話いただきましたし、北斗市工藤副市長からは、いさりび鉄道の現状に鑑みつつも、地域の交通環境が著しく変化しているという危機感も踏まえて、この鉄道をどうしていくかという観点からご意見をいただいた。

- ・ 木古内町鈴木町長からは力強い、様々な観点から今後を見据えてこの鉄道をどうしていくかという考えを聞かせていただいた。
- ・ 新幹線の開業に伴って経営分離された鉄道というものをどうしていくかという観点で策定した現経営計画から、令和8年度以降の経営計画の策定に向けて実務的に協議を進めていくが、開業当時とこれからの経営を考えるのでは、議論は相当変わるだろうと感じている。
- ・ いさりび鉄道以外も道内の鉄道をどうしていくかということは非常に難しい課題に直面している。精緻な収支予測、非常に難しい検討・協議が必要になると思うが、2市1町からいただいたご意見と同じ認識を持ってしっかりと取り組んで行きたいと、改めて道としても認識を深めたところ。
- ・ 会社におかれては、今日のご意見を重く受け止めていただき、今後検討していただくことに主体的な役割を發揮していただければ、我々も必要な協力は惜しまないので、引き続きよろしくお願ひしたいと思う。
  
- ・ ただいまご発言いただいた各市町のご意見を踏まえ、協議会として検討を進めることを一つの方向性として共有し、判断したいと思うが、よろしいか。

(異議等無し)

- ・ 異議無しとして、そのようにさせていただく。

以上